

R7 年度実施 R8 年度シーズ公募時期（実績）

	R7&R8 年度シーズ H 公募時期	R8 年度シーズ A 公募時期	R8 年度シーズ preF/B/C/F 公募時期
北海道大学	–	6/2～9/30	6/2～8/31
東北大学	5/21～6/9 (R7) 11/17～12/12 (R8)	1次：5/21～6/9 2次：11/17～12/12	9/19～10/3
筑波大学	–	8/18～11/5	8/18～10/1
国立がん研究センター	–	9/22～10/24	7/28～8/29
東京大学	–	10/1～10/24	10/1～10/24
慶應義塾	4/8～5/15 (R7) 10/2～11/10 (R8)	8/1～10/20	8/1～9/26
藤田学園	–	10/1～11/14	10/1～10/31
名古屋大学	–	10/20～11/28	9/22～10/31
京都大学	3/28～4/17 (R7) 10/28～11/18 (R8)	10/28～11/18	9/1～9/25
大阪大学	4/1～5/7 (R7) 10/14～11/19 (R8)	10/14～11/19	7/15～8/20
岡山大学	–	8/6～9/5	9/25～10/23
九州大学	5/19～6/23 (R7) 11/1～12/8(R8)	8/1～9/30	8/1～9/30

R7年度 シーズ A 公募実績と支援の特長・研究者へのメッセージ

拠点名	応募数 (拠点内/外)	採択数 (拠点内/外)	採択率 (拠点内/外)	配分研究 費の規模	医薬品 (採択/応募数)	再生 遺伝子 (採択/応募数)	医療 機器 (採択/応募数)	IVD (採択/応募 数)	その他 要素技術 (採択/応募数)
	審査の観点や支援の特長等、拠点から応募研究者へのメッセージと相談窓口								
北海道 大学	49 (28/21)	18 (10/8)	37% (36%/38%)	150~ 300万円	9/22	0/3	6/16	3/7	0/1
	当拠点の評価では、「技術の革新性」・「医療上の問題解決の蓋然性」・「計画の妥当性」を重視します。開発実績は医薬品～IVDの全てのモダリティに亘り、特に最近ではSaMDの開発件数が増加しています。製薬企業・PMDAの経験人材が豊富で、知財、薬事、非臨床・臨床試験、CMC、企業マッチングに至る幅広い領域で研究者をサポートしています。ご興味があれば以下の相談窓口まで。相談窓口：北大 TR 事務局、✉ tr_shinsei@pop.med.hokudai.ac.jp 、☎ 011-706-6898 (直通)								
東北大学	67 (17/50)	32 (10/22)	49% (59%/44%)	170~ 270万円	17/36	1/1	13/27	1/3	0/0
	審査においては、「革新性」「実用化可能性」「応募条件への適合性」の観点で評価を行います。採択シーズに対しては、シーズの価値の最大化、臨床的意義の明確化を行い、実用化を見据え開発の方向性を決めるための伴走支援を行います。公募時期に関わらずシーズ相談を受け付けておりますので、まずはお気軽にお問い合わせください。								
筑波大学	36 (12/24)	15 (5/10)	42% (42%/42%)	230~ 300万円	4/17	4/6	7/12	0/0	0/1
	医療上の必要性や革新性を重視しており、既存の治療法がない希少・難治性疾患を対象に独創的・画期的な技術で治療・診断を目指すものなどを高く評価しています。筑波大学では、実用化に向けてスタートアップ起業や国際展開を含めた出口戦略を見据えた支援を、製薬企業等出身のPMが実施しております。また、医薬・バイオ分野に詳しい顧問弁理士に依頼して知財に関するアドバイスも行っており、実践的な知財戦略・研究開発戦略策定を丁寧に支援します。ご相談は、こちらまでお願いします。								
国立がん 研究セン ター	60 (31/29)	21 (14/7)	35% (45%/24%)	220~ 450万円	11/35	1/3	6/11	1/8	2/3
	国立がん研究センターではアカデミアシーズとしての「新規性」「優位性」に加えて、ステージアップや実用化を目指した「事業性」「特許性」の観点で審査しています。アカデミアシーズが陥りやすい「イノベーションギャップ(死の谷)」を乗り越えるために、応用研究から早期臨床試験までの「Near Clinical」ステージに必要なとされる出口戦略、製造法等の課題を包括して対応できるシーズ開発支援を目指しています。シーズ開発の相談は1年を通して行っておりますので、 橋渡し研究推進センターHP からお問い合わせください。								
東京大学	17 (11/6)	12 (7/5)	71% (64%/83%)	200~ 400万円	5/7	1/1	6/6	0/0	0/3
	東京大学拠点では、東大病院と医科研究病院の2機関を保有し、広範囲な、様々な課題に対応できる組織を保有しており、毎年採択するシーズも多岐に渡っております。採択後は、弁理士による知財強化、PMDAや企業経験者による実用化に向けた戦略、ライセンスアウト、ベンチャー設立支援など、種々のご要望に対して支援します。ご応募をお待ちしております。								
慶應義塾	55 (18/37)	24 (7/17)	44% (39%/46%)	200~ 425万円	13/34	6/6	4/11	1/4	0/0
	※上記のシーズ数は新規課題および継続課題の合計を示しています。 拠点審査は「特許性」「開発可能性」「社会的意義」「科学的重要性」という4項目で評価します。当拠点では、拠点内外区別なく、また領域に拘らず、革新的な医療技術に繋がる可能性のあるシーズを積極的に採択しております。応募や実用化等に関するご相談などございましたら、お気軽に こちら にご連絡ください。								

拠点名	応募数 (拠点内/外)	採択数 (拠点内/外)	採択率 (拠点内/外)	配分研究 費の規模	医薬品 (採択/応募数)	再生 遺伝子 (採択/応募数)	医療 機器 (採択/応募数)	IVD (採択/応募 数)	その他 要素技術 (採択/応募数)
	審査の観点や支援の特長等、拠点から応募研究者へのメッセージと相談窓口								
藤田学園	83 (23/60)	25 (8/17)	30% (35%/28%)	200~ 350万円	11/47	3/7	7/17	4/8	0/4
	審査は、「科学的重要性」「研究計画の妥当性」「社会実装の可能性」「社会的意義」の4つの観点に基づいて行います。採択された課題は、担当PMを中心にTPPを整理し、企業導出や実用化を見据えた支援を行います。またシーズAの特許出願戦略策定においては、拠点の知財専門家も協議に加わり、研究者と共に戦略を構築します。藤田医科大学の多様な機能を最大限に活用できる点が本拠点の強みであり、拠点一丸となってシーズの実用化を支援します。ご相談などがございましたら、お気軽にお問い合わせください。								
名古屋大学	43 (14/29)	18 (7/11)	41% (50%/38%)	270~ 500万円	2/14	3/4	8/12	3/10	2/3
	本拠点では、研究の革新性、実用化可能性、研究計画の妥当性等の観点から総合的に審査を行い、有望なシーズの発掘と育成を推進しています。採択後は、プロジェクトマネジメント、薬事・知財戦略等を含む伴走型支援を通じて、研究成果の実用化に向けた研究推進を支援します。応募に関する相談については先端医療開発部を窓口とし、研究内容や申請方法等について個別相談に対応します。シーズ公募のご相談先はこちら。								
京都大学	45 (24/21)	15 (10/5)	33% (42%/24%)	230~ 350万円	6/18	2/4	6/21	1/2	0/0
	京都大学拠点のシーズAでは、開発物が薬事承認又は認証の対象になりうることを採択条件に、拠点内外やモダリティに関わらず幅広く支援します。上記の応募数及び採択数は新規シーズの件数のみで、この他に2年目の継続シーズも審査の上で多数採択しています。平等な評価により、特色・独創性、臨床的意義、開発可能性の総合点で審査します。PMDAや製薬・医療機器企業の出身者が専門性の高い伴走支援を行い、次ステージを見据えて臨床医や企業とのマッチングも積極的に進めます。実用化に興味がある研究者はこちらにお気軽にご相談ください。								
大阪大学	87 (53/34)	35 (24/11)	40% (45%/32%)	143~ 297万円	17/50	6/9	12/26	0/2	0/0
	大阪大学拠点では、豊富な実績を有する再生医療や医療機器をはじめ、創薬や遺伝子治療開発など様々なシーズを対象に、多彩なMD人材、創薬化学、知財、事業化、薬事、保険、細胞遺伝子治療などのエキスパートが、初期創薬研究、医療機器ニーズ探索から早期臨床試験、企業導出、スタートアップ支援まで、幅広い支援を提供します。相談窓口まで、お気軽にご相談ください。								
岡山大学	85 (42/43)	25 (17/8)	29% (40%/19%)	110~ 495万円	20/39	0/7	3/27	2/10	0/2
	<ul style="list-style-type: none"> 科学性・革新性を重視した評価システム、かつ、事業目標との整合性・達成可能性は事務局が客観的に評価します 製薬・診断薬・機器メーカー等の研究開発担当者/PMDA 審査官 経験者が支援 拠点の内外やモダリティを問わない支援体制、個別相談や申請書の記載方法についても親身に対応いたします 公募に関するお問い合わせや相談申込は（お早めに）こちらからどうぞ 								
九州大学	60 (23/37)	24 (12/12)	40% (52%/32%)	250万円	20/47	2/4	2/6	0/2	0/1
	技術の革新性、開発の準備状況、明確な特許戦略を重視して評価します。特に企業連携支援に力を入れており、申請課題は拠点が連携する製薬企業やVCに紹介し、評価の速やかなフィードバックや直接の意見交換により、研究者が企業コメントを試験計画に反映させて、実用化に向けて効率的に研究が進められるよう支援しています。詳しくはこちらをご覧ください。ご応募お待ちしております。								

R7 年度 シーズ H 公募実績と支援の特長・研究者へのメッセージ

拠点名	応募数 (拠点内/外)	採択数 (拠点内/外)	採択率 (拠点内/外)	配分研究 費の規模 (万円)	医薬品 (採択/応募数)	再生 遺伝子 (採択/応募数)	医療 機器 (採択/応募数)	IVD (採択/応募数)	その他 要素技術 (採択/応募数)
審査の観点や支援の特長等, 拠点から応募研究者へのメッセージと相談窓口									
東北大学	22 (11/11)	16 (7/9)	73% (64%/82%)	160~ 240 万円	4/6	0/0	10/13	0/0	2/3
	審査においては、「革新性」「実用化可能性」「応募条件への適合性」の観点で評価を行います。採択シーズに対しては、シーズの価値の最大化、臨床的意義の明確化を行い、実用化を見据え開発の方向性を決めるための伴走支援を行います。公募時期に関わらずシーズ相談を受け付けておりますので、まずはお気軽にお問い合わせください。								
慶應義塾	40 (8/32)	8 (2/6)	20% (25%/19%)	300~ 820 万円	4/16	1/2	3/14	0/2	0/6
	革新的な（これまでにない）医療技術に繋がることに期待を持たせる課題を積極的に採択したいと考えております。慶應義塾拠点では、シーズ H(a)（研究費：200～250 万円程度/年）、シーズ H(b)（研究費：700～800 万円程度/年）の 2 つの公募枠を設けています。採択されたシーズには、それぞれ担当 PM を配置し支援を行います。担当 PM は、拠点、企業、臨床の目線を取り入れ「シーズの実用化に向けた開発の方向性を見出すこと」を重要視しながら研究者の支援を行います。教育コンテンツも用意しておりますので、実用化を目指したい研究者は是非とも応募をご検討ください。相談は大歓迎ですので、お気軽にこちらにご連絡ください。								
京都大学	27 (10/17)	9 (4/5)	33% (40%/29%)	240~ 190 万円	1/10	0/0	5/10	0/0	3/7
	京都大学拠点のシーズ H では、開発物が薬事承認の対象にならない要素技術も採択しています。拠点内外に関わらず全てのモダリティ及び要素技術について平等な評価により、特色・独創性、医療への貢献の可能性、開発可能性の総合点で審査します。上記の応募数及び採択数は新規シーズの件数のみで、この他に 2 年目の継続シーズも審査の上で多数採択しています。PMDA や製薬・医療機器企業の出身者が専門性の高い伴走支援を行い、次のステージを見据えて臨床医や導出企業とのマッチングも積極的に進めます。興味がある研究者はこちらにお気軽にご相談ください。								
大阪大学	36 (15/21)	19 (8/11)	53% (53%/52%)	143~ 363 万円	12/22	2/2	4/10	1/2	0/0
	大阪大学拠点では、豊富な実績を有する再生医療や医療機器をはじめ、創薬や遺伝子治療開発など様々なシーズを対象に、多彩な MD 人材、創薬化学、知財、事業化、薬事、保険、細胞遺伝子治療などのエキスパートが、初期創薬研究、医療機器ニーズ探索から早期臨床試験、企業導出、スタートアップ支援まで、幅広い支援を提供します。相談窓口まで、お気軽にご相談ください。								
九州大学	50 (23/27)	13 (3/10)	26% (13%/37%)	100~ 500 万円	2/12	2/2	4/21	3/5	2/10
	公募では、一般枠（年間 200 万円程度）と共創枠（年間 500 万円程度）を設け、共創枠では異分野領域の研究者 2 名で技術シーズを融合させ、革新的な医療シーズを提案いただきます。採択者には医療現場の観察機会や医薬品開発に関して学ぶ機会が提供され、開発最初期から PM が伴走しながら開発を進めていただきます。詳しくは生命科学革新実現化拠点の HP をご覧ください。ご応募お待ちしております。								

R6 年度実施 R7 年度シーズ公募時期（実績）

	(R7 年度シーズ H 公募時期) 【*実施機関については未定】	R7 年度シーズ A 公募時期	R7 年度シーズ preF/B/C/F 公募時期
北海道大学	-	7/1～11/29	7/1～10/31
東北大学	-	1 次：6/24～7/17 2 次：11/21～12/13	9/13～11/8 (登録は～9/27)
筑波大学	-	8/19～11/6	8/19～10/2
国立がん研究センター	-	9/24～10/25	7/29～8/30
東京大学	-	10/1～10/25	10/1～10/25
慶應義塾	-	8/2～10/21	8/2～10/1
藤田学園	-	12/9～1/7	12/3～12/16
名古屋大学	-	10/16～12/5	9/17～10/31
京都大学	-	11/1～11/25	9/2～9/25
大阪大学	-	10/15～11/19	7/18～8/20
岡山大学	-	8/20～9/18	9/25～10/24
九州大学	-	9/2～10/21	8/19～9/24

R6 年度 シーズ A 公募実績

拠点名	応募数 (拠点内/外)	採択数 (拠点内/外)	採択率 (拠点内/外)	配分研究 費の規模	医薬品 (採択/応募数)	再生 遺伝子 (採択/応募数)	医療 機器 (採択/応募数)	IVD (採択/応募数)	その他 要素技術 (採択/応募数)
	審査の観点や支援の特長等, 拠点から応募研究者へのメッセージと相談窓口								
北海道 大学	51 (18/33)	14 (7/7)	27% (39%/21%)	250~ 400 万円	8/24	0/3	4/14	2/8	0/2
	提出していただいた提案書で事業趣旨との整合性を確認した後, 技術の革新性・医療ニーズへの寄与度・計画の妥当性などを評価します。医薬品~IVD の全てのモダリティで薬事承認を得た実績があり, 特に医療機器では小型~大型までの開発経験があります。製薬企業出身者, PMDA 経験者などが多数在籍し, 知財・薬事戦略策定, 非臨床・臨床試験遂行に加え, 各種事業への応募や企業マッチングなどにも厚くサポート致します。相談窓口: 北大 TR 事務局, ✉ tr_shinsei@pop.med.hokudai.ac.jp , ☎ 011-706-6898 (直通)								
東北大学	94 (31/63)	28 (13/15)	26.6% (42%/24%)	170~200 万円	16/44	0/6	9/32	0/6	3/6
	審査においては、「革新性」「実用化可能性」「応募条件への適合性」の観点で評価を行います。採択シーズに対しては、シーズの価値の最大化、臨床的意義の明確化を行い、実用化を見据え開発の方向性を決めるための伴走支援を行います。公募時期に関わらずシーズ相談を受け付けておりますので、まずはお気軽にお問い合せください。								
筑波大学	24 (10/14)	13 (5/8)	54% (50%/57%)	200~ 350 万円	6/10	1/3	4/9	1/1	1/1
	医療上の必要性や革新性を重視しており、既存の治療法がない希少・難治性疾患などを対象としたものを高く評価しています。筑波大学では実用化に向けて国際展開を含めた出口戦略を見据えた支援を医薬品及び医療機器の企業出身者などが担当して実施しております。また、医薬・バイオ分野に詳しい顧問弁理士に依頼して「知財・研究戦略相談会」を開催し、実践的な知財戦略・研究開発戦略策定を丁寧に支援します。ご相談は、 こちら までお願いします。								
国立がん 研究セン ター	54 (28/26)	21 (14/7)	39% (50%/27%)	250~ 450 万円	13/30	1/4	5/14	0/3	2/3
	国立がん研究センターではアカデミアシーズとしての「新規性」「優位性」に加えて、ステージアップや実用化を目指した「事業性」「特許性」の観点で審査しています。アカデミアシーズが陥りやすい「イノベーションギャップ(死の谷)」を乗り越えるために、応用研究から早期臨床試験までの「Near Clinical」ステージに必要とされる出口戦略、製造法等の課題を包括して対応できるシーズ開発支援を目指しています。シーズ開発の相談は 1 年を通して行っておりますので、 橋渡し研究推進センターHP からお問い合わせください。								
東京大学	20 (11/9)	13 (8/5)	65% (73%/56%)	200~ 350 万円	5/8	2/3	4/6	1/1	1/2
	審査の観点や支援の特長等, 拠点から応募研究者へのメッセージと相談窓口: 東京大学拠点では、東大病院と医科研病院の 2 機関を保有し、広範囲な、様々な課題に対応できる組織を保有しており、毎年採択するシーズも多岐に渡っております。採択後は、弁理士による知財強化、PMDA や企業経験者による実用化に向けた戦略、ライセンスアウト、ベンチャー設立支援など、種々のご要望に対して支援します。ご応募をお待ちしております。								
慶應義塾	42 (12/30)	24 (10/14)	57% (83%/47%)	200~ 250 万円	12/23	4/4	5/8	3/7	0/0
	※上記のシーズ数は新規課題および継続課題の合計を示しています。 拠点審査は「特許性」「開発可能性」「社会的意義」「科学的重要性」という 4 項目で評価します。当拠点では、拠点内外区別なく、また領域に拘らず、革新的な医療技術に繋がる可能性のあるシーズを積極的に採択しております。応募や実用化等に関するご相談などございましたら、お気軽に こちら にご連絡ください。								

拠点名	応募数 (拠点内/外)	採択数 (拠点内/外)	採択率 (拠点内/外)	配分研究 費の規模	医薬品 (採択/応募数)	再生 遺伝子 (採択/応募数)	医療 機器 (採択/応募数)	IVD (採択/応募数)	その他 要素技術 (採択/応募数)
	審査の観点や支援の特長等、拠点から応募研究者へのメッセージと相談窓口								
藤田学園	106 (44/62)	24 (8/16)	23% (18%/26%)	200~ 430万円	13/60	5/15	3/18	3/12	0/1
	審査は、「科学的重要性」「研究計画の妥当性」「社会実装の可能性」「社会的意義」の4つの観点に基づいて行います。採択された課題は、担当PMを中心にTPPを整理し、企業導出や実用化を見据えた支援を行います。またシーズAの特許出願戦略策定においては、拠点の知財専門家も協議に加わり、研究者と共に戦略を構築します。藤田医科大学の多様な機能を最大限に活用できる点が本拠点の強みであり、拠点一丸となってシーズの実用化を支援します。ご相談などがございましたら、以下の窓口までお気軽にお問い合わせください。								
名古屋大学	57 (31/26)	17 (7/10)	30% (22%/38%)	300~ 500万円	9/28	2/12	3/6	3/9	0/2
	医薬品や医療機器等のモダリティを問わず、広くシーズを募集しています。再生医療等製品や核酸医薬等、アカデミアならではの革新的なモダリティについても積極的に取り組んでいます。公募に際しては、事業趣旨等との整合性や、研究開発の意義及び優位性、実施可能性、研究開発体制、実用化に向けて勘案すべき項目等の観点から評価をします。プロジェクトマネジャーは製薬企業出身者やPMDA経験者、MD等多様なバックグラウンドを持ち、柔軟かつ丁寧なサポートを行っています。シーズ公募のご相談先はこちら。								
京都大学	49 (23/26)	15 (10/5)	31% (43%/19%)	230~ 380万円	5/19	3/7	5/12	2/7	0/4
	シーズAでは、開発物が薬事承認又は認証の対象になりうる事が採択条件になりますが、京都大学拠点では、拠点内外及びモダリティを問わずこれらについて平等な審査を行い幅広く支援します。特色・独創性、臨床的意義、開発可能性を加味した総合点で評価します。応募数及び採択数は1年目の新規シーズの件数のみを記載しており、京都大学拠点ではこの他に2年目の継続シーズも審査の上で多数採択しています。PMDA、製薬・医療機器企業の出身者がモダリティに合わせた専門性の高い伴走支援を行います。次のステージを見越した臨床医や導出企業とのマッチングも積極的に行います。実用化に興味がある研究者はこちらにまずご相談ください。								
大阪大学	72 (36/36)	34 (21/13)	47% (58%/36%)	143~ 363万円	14/35	1/4	17/29	2/4	0/0
	大阪大学拠点では、豊富な実績を有する再生医療や医療機器をはじめ、創薬や遺伝子治療開発など様々なシーズを対象に、多彩なMD人材、創薬化学、知財、事業化、薬事、保険、細胞遺伝子治療などのエキスパートが、初期創薬研究、医療機器ニーズ探索から早期臨床試験、企業導出、スタートアップ支援まで、幅広い支援を提供します。相談窓口まで、お気軽にご相談ください。								
岡山大学	82 (40/42)	32 (24/8)	39% (75%/25%)	110~ 440万円	24/44	2/8	2/14	3/13	1/3
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 科学性・革新性を重視した評価システム、かつ、事業目標との整合性・達成可能性は事務局が客観的に評価します ・ 製薬・診断薬・機器メーカー等の研究開発担当者/PMDA 審査官 経験者が支援 ・ 拠点の内外やモダリティを問わない支援体制、個別相談や申請書の記載方法についても親身に対応いたします ・ 公募に関するお問い合わせや相談申込は (お早めに) TR-SPRINT の「お問合せ」からどうぞ 								
九州大学	64 (18/46)	26 (5/21)	41% (28%/46%)	250万円	13/29	5/7	4/18	3/8	1/2
	技術の革新性、試験の準備状況、特許戦略の明確な説明を重視して評価します。特に企業連携支援に力を入れており、採択課題は60社以上の製薬企業やVCに紹介し、評価を速やかに研究者にフィードバックすることで、研究者が企業コメントを試験計画へ反映させて、実用化に向けて効率的に研究が進められるよう支援しています。詳しくは こちら をご覧ください。ご応募お待ちしております。								

R6 年度 シーズ H 公募実績

拠点名	応募数 (拠点内/外)	採択数 (拠点内/外)	採択率 (拠点内/外)	配分研究 費の規模 (万円)	医薬品 (採択/応募数)	再生 遺伝子 (採択/応募数)	医療 機器 (採択/応募数)	IVD (採択/応募数)	その他 要素技術 (採択/応募数)
審査の観点や支援の特長等、拠点から応募研究者へのメッセージと相談窓口									
東北大学	14 (7/7)	13 (6/7)	93% (86%/100%)	145~ 210 万円	4/5	1/1	7/7	1/1	0/0
	シーズ A との同時募集を実施しております。審査においては、「革新性」「実用化可能性」「応募条件への適合性」の観点で評価を行います。採択シーズに対しては、シーズの価値の最大化、臨床的意義の明確化を行い、実用化を見据え開発の方向性を決めるための伴走支援を行います。公募時期に関わらずシーズ相談を受け付けておりますので、まずはお気軽にお問い合わせください。								
慶應義塾	35 (3/32)	14 (1/13)	40% (33%/41%)	220~ 250 万円	6/13	0/2	4/13	2/3	2/4
	※採択課題（新規、継続）の詳細は慶應義塾拠点の「研究関連に関するニュース」にて報告予定です。 革新的な（これまでにない）医療技術に繋がること期待を持たせる課題を積極的に採択したいと考えております。応募時点では必ずしも実用化の道筋が明確になっている必要はございませんが、これまでの基礎研究の成果に立脚した構想であることが重要だと考えております。採択されたシーズには、それぞれ担当 PM を配置し支援を行います。担当 PM は、拠点、企業、臨床の目線を取り入れ「シーズの実用化に向けた開発の方向性を見出すこと」を重要視しながら研究者の支援を行います。教育コンテンツも用意しておりますので、実用化を目指したい研究者は是非とも応募をご検討ください。相談は大歓迎ですので、お気軽にこちらにご連絡ください。								
京都大学	17 (7/10)	12 (6/6)	71% (86%/60%)	190~ 280 万円	4/5	3/3	4/6	0/2	1/1
	シーズ H では、開発物が薬事承認の対象にならない要素技術も採択可能です。京都大学拠点では、全てのモダリティ及び要素技術について平等な審査を行い幅広く支援します。特色・独創性、医療への貢献の可能性、開発可能性を加味した総合点で評価します。応募数及び採択数は 1 年目の新規シーズの件数のみを記載しており、京都大学拠点ではこの他に 2 年目の継続シーズも審査の上で多数採択しています。PMDA、製薬・医療機器企業の出身者がモダリティに合わせた専門性の高い伴走支援を行います。次のステージを見越した臨床医や導出企業とのマッチングも積極的に行います。興味がある研究者はこちらにまずはご相談ください。								
大阪大学	29 (12/17)	21 (8/13)	72% (67%/76%)	143~ 363 万円	13/18	3/3	5/7	0/1	0/0
	大阪大学拠点では、研究段階の創薬シーズ、再生医療や医療機器のみならず、DDS や分析技術などプラットフォーム技術も高く評価しており、医学系研究者とのマッチングやニーズ探索、TPP 策定、スタートアップ支援等、このステージに必要な専門的支援を積極的に提供しています。あらゆる相談に対応した相談窓口を用意しておりますので、お気軽にお問い合わせください。								
九州大学	64 (32/32)	22 (12/10)	34% (38%/31%)	特定領域: ~400 万円 一般領域: ~200 万円 開拓枠: ~100 万円	6/18	1/2	7/20	2/6	6/18
	公募では、特定領域（年間 500 万円）と一般領域（年間 200 万円）を設け、特定領域ではステークホルダーから収集したニーズをもとに領域を設定しております。採択者には医療現場の観察機会や医薬品開発に関して学ぶ機会が提供され、開発最初期から PM が伴走しながら開発を進めていただきます。詳しくは西日本橋渡し研究ネットワークの HP をご覧ください。ご応募お待ちしております。								

R5 年度実施 R6 年度シーズ公募時期（実績）

	R6 年度シーズ H 公募時期	R6 年度シーズ A 公募時期	R6 年度シーズ preF/B/C/F 公募時期
北海道大学	-	～11/27	～10/23
東北大学	1 次公募：11/6～12/4	1 次公募：7/3～7/28 2 次公募：11/6～12/4	9/14～11/9 シーズ登録：～9/22
筑波大学	-	8/21～11/8	8/21～10/4
国立がん研究センター	-	9/29～10/30	8/4～9/11
東京大学	-	10/2～10/27	10/2～10/27
慶應義塾	9/19～11/13	7/27～10/2	7/27～10/2
名古屋大学	-	10/17～12/5	9/21～10/31
京都大学	11/1～11/30	11/1～11/30	9/1～9/28
大阪大学	10/19～11/20	10/19～11/20	7/20～8/21
岡山大学	-	8/21～9/20	9/25～10/24
九州大学	10/2～12/18	9/1～11/13	9/1～10/23

R5年度 シーズ A 公募実績

拠点名	応募数 (拠点内/外)	採択数 (拠点内/外)	採択率 (拠点内/外)	配分研究 費の規模	医薬品 (採択/応募数)	再生 遺伝子 (採択/応募数)	医療 機器 (採択/応募数)	IVD (採択/応募数)	その他 要素技術 (採択/応募数)
審査の観点や支援の特長等、拠点から応募研究者へのメッセージと相談窓口									
北海道 大学	41 (20/21)	21 (12/9)	51% (60%/43%)	200~ 500万円	12/24	1/2	5/10	3/3	0/2
シーズ選定では「優れた新しい価値の提供が可能か」の観点からシーズを審査させていただきます。本拠点には製薬企業、PMDA、特許庁出身者など医療技術開発の経験豊富な人材が多数在籍し、様々なモダリティに対して、非臨床・臨床試験計画はもとより、特許申請、PMDA 相談、企業連携など、承認取得までの全ての段階で研究をサポートいたします。お問い合わせサイトは こちら 。									
東北大学	41 (15/26)	24 (13/11)	58% (86%/42%)	227万円 (支援料含む)	12/22	1/3	8/11	3/5	0/0
橋渡しシーズ A と異分野事業の公募時期を統一し、異分野事業との併願審査を行っています。公募は年 2 回実施しており、8 月頃に令和 6 年度の 1 次公募を、12 月頃に令和 6 年度の 2 次公募を予定しております。 シーズ支援については、シーズ毎に最適な時期にメンタリングを随時実施し、シーズの価値最大化、臨床的意義の明確化を行い、開発計画を作成していきます。また補助期間内に特許等が出願できるように知財戦略の立案を始めとする知財支援を行います。公募や支援に関するお問合せ・ご相談は こちら までご連絡ください。									
筑波大学	27 (13/14)	16 (7/9)	59% (54%/64%)	170~ 300万円	7/11	0/1	7/10	2/3	0/2
医療上の必要性や革新性を重視しており、既存の治療法がない希少・難治性疾患などを対象としたものを高く評価しています。筑波大学では実用化に向けた出口戦略を見据えた支援を、医薬品及び医療機器の企業出身者などが担当して実施しており、また医薬・バイオ分野に詳しい顧問弁理士に依頼して「知財・研究戦略相談会」を開催し、実践的な知財戦略・研究開発戦略策定を丁寧に支援します。 ご相談は、 こちら までお願いします。									
国立がん 研究セン ター	67 (35/32)	18 (12/6)	27% (34%/19%)	300~ 500万円	6/28	2/2	8/21	0/8	2/8
国立がん研究センターの強みは、橋渡し研究支援機関とふたつの臨床研究中核病院を有していることです。中央病院・東病院・先端医療開発センター・研究所のがん領域に特化したノウハウを集約し、基礎研究から臨床開発まで、切れ目のない橋渡し研究を支援します。シーズ開発の相談は 1 年を通して行っておりますので、 橋渡し研究推進センターHP からお問い合わせください。									
東京大学	34 (19/15)	17 (6/11)	50% (32%/73%)	100~ 300万円	9/13	0/3	5/12	3/3	0/3
東大拠点では、多様な卓越したシーズを幅広い領域から募集しています。評価は、医学などの専門家、特許の専門家、PMDA や企業などの経験者が特許取得、実用化の視点で厳格に審査します。特許取得、特許取得のための研究計画、実用化について不安があっても当拠点の専門家が、面談での助言等で支援を行い、企業とのマッチングなどの相談にも応じます。									

拠点名	応募数 (拠点内/外)	採択数 (拠点内/外)	採択率 (拠点内/外)	配分研究 費の規模	医薬品 (採択/応募数)	再生 遺伝子 (採択/応募数)	医療 機器 (採択/応募数)	IVD (採択/応募数)	その他 要素技術 (採択/応募数)
	審査の観点や支援の特長等、拠点から応募研究者へのメッセージと相談窓口								
慶應義塾	44 (15/29)	31 (11/20)	詳細は こちら	120~ 250万円	11/17	4/5	10/15	6/7	0/0
	<p>拠点審査は「特許性」「開発可能性」「社会的意義」「科学的重要性」という4項目で評価します。当拠点では、拠点内外区別なく、また領域に拘らず、革新的な医療技術に繋がる可能性のあるシーズを積極的に採択しております。採択されたシーズには、それぞれ担当プロジェクトマネジャー（PM）を配置し、そのシーズの状況に合わせた支援を行います。研究成果を何としてでも社会実装に繋げたいという熱意のある研究者からの応募は大歓迎です。</p> <p>応募や実用化等のご相談などございましたら、お気軽にこちらにご連絡ください。</p>								
名古屋 大学	53 (30/23)	17 (7/10)	32% (23%/43%)	250~ 500万円	8/24	3/7	5/12	1/6	0/4
	<p>医薬品や医療機器等のモダリティを問わず、広くシーズを募集しています。再生医療等製品や核酸医薬等、アカデミアならではの革新的なモダリティについても積極的に取り組んでいます。プロジェクトマネジャーは製薬企業出身者やPMDA経験者、MD等多様なバックグラウンドを持ち、柔軟かつ丁寧なサポートを行っています。</p> <p>シーズ公募のご相談先はこちら。</p>								
京都大学	33 (22/11)	15 (10/5)	45% (45%/45%)	190~ 330万円	-	-	-	-	-
	<p>シーズ A では、開発物が薬事承認又は認証の対象になりうる事が採択条件になりますが、京都大学拠点では、全てのモダリティについて平等な審査を行い幅広く支援します。特色・独創性、臨床的意義、開発可能性を加味した総合点で評価します。応募数及び採択数は1年目の新規シーズの件数のみを記載しており、京都大学拠点ではこの他に2年目の継続シーズも審査の上で多数採択しています。PMDA、製薬・医療機器企業の出身者がモダリティに合わせた専門性の高い伴走支援を行います。次のステージを見越した臨床医や導出企業とのマッチングも積極的に行います。</p> <p>実用化に興味がある研究者はこちらにまずはご相談ください。</p>								
大阪大学	69 (31/38)	36 (22/14)	52% (71%/37%)	137~ 297万円	18/39	8/10	6/14	4/6	0/0
	<ul style="list-style-type: none"> ・目安として2年以内に関連特許の出願を目指す基礎研究課題を募集します。 ・大学等のオリジナルな研究成果で、迅速な承認・認証を目指すシーズを対象とします。 ・審査では、特許性、社会的意義、科学的重要性、企業や他のアカデミアとの連携の状況が重視されます。採択されすと、研究費の支給に加え、医師や厚労省/PMDA もしくは製薬企業出身者による実用化に向けた伴走支援があります。 ・相談窓口はこちらです。 								

拠点名	応募数 (拠点内/外)	採択数 (拠点内/外)	採択率 (拠点内/外)	配分研究 費の規模	医薬品 (採択/応募数)	再生 遺伝子 (採択/応募数)	医療 機器 (採択/応募数)	IVD (採択/応募数)	その他 要素技術 (採択/応募数)
審査の観点や支援の特長等，拠点から応募研究者へのメッセージと相談窓口									
岡山大学	73 (30/43)	25 (12/13)	34% (40%/30%)	150~ 500万円	16/44	3/7	3/10	3/10	0/2
<ul style="list-style-type: none"> ・ 科学性・革新性を重視した評価システム、かつ、事業目標との整合性・達成可能性は事務局が客観的に評価します ・ 製薬・診断薬・機器メーカー等の研究開発担当者/PMDA 審査官 経験者が支援 ・ 拠点の内外やモダリティを問わない支援体制、個別相談や申請書の記載方法についても親身に対応いたします ・ 公募に関するお問い合わせや相談申込は（お早めに）こちらからどうぞ。 									
九州大学	69 (24/45)	30 (12/18)	43.5% (50%/40%)	平均 258.3万円	14/33	3/10	9/13	2/7	2/7
<p>いかに革新的な技術であるかという観点を踏まえて特許出願までの予定が明確に記載されている課題を評価します。特に企業連携支援に力をいれており、50社以上の製薬企業とVC等に採択課題を紹介し、企業の要望に応じてノンコン資料を送付し、企業の評価等を研究者にフィードバックしています。詳しくは西日本橋渡し研究ネットワークのHPをご覧ください。ご応募お待ちしております。</p>									

R5 年度 シーズ H 公募実績

拠点名	応募数 (拠点内/外)	採択数 (拠点内/外)	採択率 (拠点内/外)	配分研究 費の規模 (万円)	医薬品 (採択/応募数)	再生 遺伝子 (採択/応募数)	医療 機器 (採択/応募数)	IVD (採択/応募数)	その他 要素技術 (採択/応募数)
審査の観点や支援の特長等, 拠点から応募研究者へのメッセージと相談窓口									
東北大学	23 (8/15)	12 (4/8)	52% (50%/53%)	萌芽枠: 160 実用化枠: 240 (支援料含む)	6/11	0/0	4/9	1/1	1/2
<p>橋渡しシーズ A と異分野事業の公募時期を統一し、橋渡しシーズ A との併願審査を行っています。公募は年 2 回実施しており、8 月頃に令和 5 年度の 2 次公募を、12 月頃に令和 6 年度の 1 次公募を予定しております。選考は、新規課題と継続課題に分けて選考を行い、それぞれの課題について採択の可否、及び実用化枠もしくは萌芽枠の妥当性を審査して採択課題を決定します。</p> <p>シーズ支援については、個別最適化を育成支援の基本コンセプトとし、シーズ毎に最適な時期にメンタリングを随時実施し、ニーズとのマッチング、シーズの価値最大化、臨床的意義の明確化を行い、開発計画を作成していきます。</p> <p>公募や支援に関するお問合せ・ご相談はこちらまでご連絡ください。</p>									
慶應義塾	36 (7/29)	15 (2/13)	42% (29%/45%)	200~250	7/14	1/4	2/10	2/2	3/6
<p>革新的な（これまでにない）医療技術に繋がることに期待を持たせる課題を積極的に採択したいと考えております。応募時点では必ずしも実用化の道筋が明確になっている必要はございませんが、これまでの基礎研究の成果に立脚した構想であることが重要だと考えております。採択されたシーズには、それぞれ担当 PM を配置し支援を行います。担当 PM は、拠点、企業、臨床の目線を取り入れ「シーズの実用化に向けた開発の方向性を見出すこと」を重要視しながら研究者の支援を行います。教育コンテンツも用意しておりますので、実用化を目指したい研究者は是非とも応募をご検討ください。相談は大歓迎ですので、お気軽にこちらにご連絡ください。</p>									
京都大学	13 (10/3)	9 (8/1)	69% (80%/33%)	180~330	-	-	-	-	-
<p>シーズ H では、開発物が薬事承認の対象にならない要素技術も採択可能です。京都大学拠点では、全てのモダリティ及び要素技術について平等な審査を行い幅広く支援します。特色・独創性、医療への貢献の可能性、開発可能性を加味した総合点で評価します。応募数及び採択数は 1 年目の新規シーズの件数のみを記載しており、京都大学拠点ではこの他に 2 年目の継続シーズも審査の上で多数採択しています。PMDA、製薬・医療機器企業の出身者がモダリティに合わせた専門性の高い伴走支援を行います。次のステージを見越した臨床医や導出企業とのマッチングも積極的に行います。興味がある研究者はこちらにまずはご相談ください。</p>									
大阪大学	35 (11/24)	22 (6/16)	63% (55%/67%)	137~297	12/18	1/2	8/12	1/3	0
<ul style="list-style-type: none"> ・目安として 2 年以内にシーズ A への移行を目指す異分野領域（医歯薬以外）の基礎研究課題を募集します。 ・大学等のオリジナルな研究成果で、迅速な承認・認証を目指すシーズを対象としますが、医療への貢献が期待できる基盤技術も対象とします。 ・審査では、特許性、社会的意義、科学的重要性、企業や他のアカデミアとの連携の状況が重視されます。 ・採択されますと、研究費の支給に加え、医師や厚労省/PMDA もしくは製薬企業出身者による実用化に向けた伴走支援があります。相談窓口はこちらです。 									
九州大学	43 (18/25)	16 (6/10)	37.2% (33.3%/40%)	特定領域: 500 一般領域: 200 開拓枠: 100	3/12	1/2	9/16	1/5	2/8
<p>公募では、特定領域（年間 500 万円）と一般領域（年間 200 万円）を設け、特定領域ではステークホルダーから収集したニーズをもとに領域を設定しております。採択者には医療現場の観察機会や医薬品開発に関して学ぶ機会が提供され、開発最初期から PM が伴走しながら開発を進めていただきます。詳しくは西日本橋渡し研究ネットワークの HPをご覧ください。ご応募お待ちしております。</p>									

R4 年度実施 R5 年度シーズ公募時期（実績）

	R5 年度シーズ H 公募時期	R5 年度シーズ A 公募時期	R5 年度シーズ preF/B/C/F 公募時期
北海道大学	-	~11/30	~10/31
東北大学	1 次公募：12/5~1/10 2 次公募：R5.7/3~7/28	1 次公募：7/25~8/25 2 次公募：12/5~1/10	9/9~11/4
筑波大学	-	8/22~11/9	8/22~10/5
国立がん研究センター	-	10/7~11/8	8/1~9/1
東京大学	-	10/11~10/31	10/11~10/31
慶應義塾	9/27~10/31	8/10~9/30	8/10~9/30
名古屋大学	-	10/19~12/6	9/16~10/25
京都大学	10/3~10/31	10/3~10/31	9/20~10/17
大阪大学	10/18~11/17	10/18~11/17	7/22~8/22
岡山大学	-	11/14~12/23	9/26~10/28
九州大学	11/22~1/5	10/3~11/17	10/3~11/17